

「第1回 障害者(児)と子どもとの雪上運動会」

2月1日、とても暖かい日曜日。バスで高岡郡東津野村の天狗高原スキー場へ行きました。窓から外を眺めていると標高が高くなるにしたがって、道端に解けずに残っている雪が見えてきました。「ほら、雪!」と子どもたちの弾んだ声が聞こえてきます。スキー場に着くとそこは銀世界?! (には少し遠かったが)。バスから子どもたちは、飛び出していきました。

「特定非営利活動法人 自立サポートセンター あきらめないで」の主催で行われたこの雪上運動会。西は中村、東は室戸から約170人の親子やボランティアが参加しました。

外出困難な方たちのレクリエーションの一つとして、車椅子利用者の海水浴事業に取り組んできたこの団体は、参加者の方から「雪に触れてみたい」との要望から雪上運動会を企画。お互いの理解を深め、思いやりと優しさの心を育むこと、地域間の距離を越えた人たちの連携や交流の輪が広がることを期待して開催されました。



プログラム

- 雪上運動会開催挨拶
- ソリ遊び
- 勝ち抜きドキドキゲーム
- 宝探しゲーム
- 閉会 自由行動

雪の上でも親子が乗ったソリを引っ張るのは大変。ボランティアが前でひもを引っ張り、後ろからソリを押す。汗がじわり、じわりと出てきました。ソリに乗るのが初めての親子は「もう1回、もう1回!」と大喜びです。



宝探しゲームの景品交換!!
全員に用意されていました。



雪上用の車椅子(砂浜でも使用可能)もあり、介助の仕方の注意点などを教えていただきました。実際に乗ってみると雪のデコボコが体に伝わってきたので、乗る人に恐怖感を与えないように介助しなければならないと思いました。



雪の上で楽しく遊んだ後に、おいしい豚汁をみんなでいただき、少し冷えた体を暖めました。小児麻痺のお孫さん(小学生)と一緒に来ていた方は「この体験はこの子にとって、いい思い出になった。一生忘れんと思うよ。こんなことはなかなかできんからね。」と言っていたのが印象的です。その子は幼い頃に毎日、ご飯前にみかんを自分でむいて、手の力をつける訓練をしていました。これまで色々な訓練をしてきたそうで「訓練すればできないことはない」と、その子はお箸を持っておいしそうに豚汁を食べていました。

ドキドキしながらボールを回しました。
早く受け取って〜!



感想

障害がある方にとって「雪を見たい」「一人で何かをしたい」と思っても、なかなか簡単ではありません。周りの人の少しの手助けで行動の範囲がずいぶん広がってきます。この催しを通して、この少しの手助けでたくさん笑顔が見られたことが嬉しいです。

ボランティアに行ったはずなのに、誰よりも楽しんでいたような…。だからもっと多くの人にもこの楽しさを味わってほしいと思いました。また参加したいです。

ボランティアの経験がほとんどの隊員達が、毎回色々なボランティアに挑戦する企画です。